

ロケ地巡礼のさががけ 『エヴァンゲリオン』シリーズと歩む箱根町

1995年にテレビ放映が始まった『新世紀エヴァンゲリオン』。作中で「第3新東京市」のモデルとなった箱根町ではロケ地巡礼の動きが本格化し、2009年に箱根町観光協会が「エヴァンゲリオン箱根補完マップ」を作成しました。このマップを箱根湿生花園で無料配布したところ、3日間で4,000人のファンが詰めかけるほど好評を博したため、その後、新バージョンや英語版なども作成されました（現在は配布を終了しています）。

箱根町の取り組みは観光振興にとどまらず、町民の生活にも密着したコラボレーション施策が実施されています。

1. 電気自動車用急速充電器

地域活性化と脱炭素社会の構築に向けた取り組みの一環として、エヴァのデザインでラッピングされた急速充電器が、国道138号線の仙石原地域、道の駅箱根峠、箱根湿生花園に設置されています。

2. 金時公園公衆トイレ〔仙石原前哨基地〕

仙石原地域にある金時公園の公衆トイレが老朽化で建て替えられた際、作中に登場する組織の特務機関NERVが秘密裏に建設した「仙石原前哨基地」をイメージしてデザインされました。ロービジリティ（低視認性塗装）をコンセプトに、細かい部分までエヴァの世界観でデザインされています。

3. ラッピング公用車

富士山と芦ノ湖を背景に、浴衣姿の綾波レイをデザインでラッピングした公用車が導入されていました（現在は提供元に返却済み）。観光振興と連携してEVの利用拡大に取り組み、二酸化炭素削減による「環境先進観光地―箱根」の実現を目指したものです。

4. エヴァ初号機デザイン原動機付自転車 ナンバープレート

箱根町の広告塔の一つとして、オリジナルナンバープレートが交付されました（予定枚数の交付が終了したため、新規の交付は現在しておりません）。富士山、二子山、鳥居、芦ノ湖といった箱根を象徴するシルエットと共に「エヴァンゲリオン初号機」がデザインされています。

アニメや映画などの舞台を訪れるロケ地巡礼は、今や観光の一つの形として定着し、地域活性化の起爆剤にもなっています。特に海外でも人気の高い作品の舞台は、外国人が日本を訪れるきっかけになるなど経済的な効果も絶大です。箱根町の取り組みは、こうしたコンテンツツーリズムの先駆けとして現在まで続いています。



エヴァンゲリオンに関するお土産が揃う箱根湯本えうあ屋。箱根の玄関口である箱根湯本駅の1階にあり、国内外からの観光客で常に賑わっている



©カラー



©カラー

「エヴァンゲリオン初号機」とともに、箱根らしい景観が集まるナンバープレート。予定数量の交付が終了したため、新規の交付は現在していない



©カラー

金時公園公衆トイレ。部隊番号の「1181」は、本施設の所在番地に由来している